

世界一おいしいおにぎりを作るぞ

峰山小学校 四年 笠原 穂

「おはあろぐん、体調はどう？今日は病院で何を食べたのか教えて。」

「体調は少しずつよくなってきたよ。今日はトロトロのおかゆが出たよ。おいしくて全部食べられたの。写真を送るから見てね。」

私の祖母は、長い間、病気で入院をしていました。入院中、私は毎日、祖母のことが心配でした。入院をして、しばらくの間は食欲

がないと聞いていたのですが、入院前に「飯をモリモリ食べていた祖母を思い出して、信じられない気持ちになりました。祖母は、点てきやリハビリをして少しずつ体調が良くなり、食欲も戻ってきた頃、私に病院食のことを教えてくれました。」

病院では、栄養士さんが毎日、体調をかくにんし、ご飯のかたさや量を決めて、かん者さんに合った食事を考えてくれます。なので、祖母が病院食の写真を送ってくれた時に

「先週よりもご飯の量が増えたね。」
「今日のおかゆは、米つぶが目立つから少し
かたくな、たのかな。」

と、私はご飯の見方が変わりました。

私は、祖母が退院したら、祖母がよろこび
そうなることをしたいと決めていました。その
一つに、お米を種から育ててし、うかくし、
おにぎりを祖母にごちそうすることです。そ
れは、病院食を知り、前よりお米にまよ味
を持つたことや、お米の一つぶ一つぶに祖母
を元気にしてくれるパワーがこめられている
と思っただことからです。

祖母の病院食が、トロトロのおかゆから、
いつも食べているくらいのご飯のかたさにな
り、一つぶも残さず完食できた頃、ぶ事退院
ができました。そして、元気になった祖母の
ためにお米作りのじゆんびを始めました。

ま和最初に、黒土、か沼土、赤玉土をまぜ
て土作りをしました。作った土と水をバケツ
に入れてドロドロになるまで、まぜました。

田んぼのようになつた土の中に一つぶ一つぶ
「おいしいお米になくね。」

「強く育つてね。」

と、お願いしながら種もみをまきました。そ
の日から、水をあげたり、ごう草を抜くのが
私の仕事となりました。風の強い日や、大雨
の日、夏の暑い日は、お米のことが気になつ
て、何度も窓から様子をかくにんしました。

今、種もみをまいてから四か月。すすきの
ように、ぐんぐん伸び、穂はまだ緑色ですが
元気にふくらんできています。秋になつたら
しゃうかくがでると思ふので、できたお米
で、おにぎりが食べられるように、母と作る
練習をします。

「おはあろやん。秋になつてお米ができたら
私が世界一おいしいおにぎりをごちそうする
からね。楽しみに待っていてね。」
と、心の中で思いながら今日もにきつていま
す。